

2017年度 明治大学 教育職員免許状更新講習 担当割

講習日	領域	講習名	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
			9:30 ~ 10:50	11:00 ~ 12:20	13:20 ~ 14:40	14:50 ~ 16:10
7月31日(月)	選択必修	教育の最新事情	関根 宏朗 明治大学文学部准教授	齋藤 孝 明治大学文学部教授	藤井 剛 明治大学文学部特任教授	
			アクティブ・ラーニングを活用した 道徳科の指導について	今求められる学力と アクティブラーニング	アクティブラーニングを用いた主権者教育	
			2018・19年度からの「教科」化にともない、その重要度がますます高まっている道徳科の指導において、同じく文部科学省が強調しているアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりの可能性を考えてみたいと思います。上記の教育改革の流れを概括的に確認するとともに、実践的な事例の紹介・検討を通して、児童・生徒たちの能動的な学習を刺激づける道徳科指導法のイメージについて具体的に展望します。	これからの時代に求められる学力とは何かを、伝統的学力と新しい学力の二つを軸として考える。また、現在注目されているアクティブラーニングの本質を実践的に理解することを目標とする。授業スタイルとしても、グループワークを取り入れ、アクティブラーニングを実体験する形で進めたい。	2016年、公職選挙法が改正され、「18歳選挙権」が実現した。総務省と文科省は「私たちが拓く日本の未来」を作成し、全国の高校生に配布して、ここに「主権者教育」が始まった。本講習では、「主権者教育」の理論的背景を概観すると同時に、「中立」などに配慮した「主権者教育教材」を体験していただきたいと考えている。	
			「学習指導要領等に基づき育成すべき資質及び能力を育むための習得、活用及び探究の学習過程を見通した指導法の工夫及び改善」として、現在、全国の学校現場で様々な実践が試みられている「アクティブ・ラーニング」を取り上げ、それについて「道徳科における指導」、「これからの時代に求められる学力」、「主権者教育における授業実践」の3つの側面から学びます。			
8月1日(火)	必修	教育の最新事情	山下 達也 明治大学文学部准教授	高野 和子 明治大学文学部教授	松田 美登子 東京富士大学経営学部教授	
			教職についての省察	法令改正及び 国の審議会の状況等	学校とカウンセリング(1) 特別支援教育における カウンセリングの実際	学校とカウンセリング(2) 高等教育機関における 神経発達障害学生の支援
			これまでの教職生活についての省察を行うため、「教師のライフコース」に着目します。「教師のライフコース」は、個人が教師として歩んできた軌跡そのものであり、「教育専門家としての教師の発達」の過程です。「認知的な地図」が描かれることにより、いつ、どこで、どのような成長や子ども観、教育観の変化があったのか、自分がどのような教師なのかといったことについての自覚が促されます。受講者全員に「教師のライフコース」を作成してもらい、グループでの意見交換・議論を行う予定です。「自分語り」の経験と多様な教師(他者)のライフコースへの接触により、教職についての省察を図ります。	なぜ、学校現場の教員が「法令改正及び国の審議会の状況等」を学ぶのでしょうか？本時では、教育改革が喧伝されるなかで学校教員がどのような位置に置かれているのかにまず意識を向けます。そのうえで、教育基本法改正(2006年12月)から今日に至るまでの状況を大づかみ出来るように学び、政策の方向性を把握します。1時限目の「教員としての子ども観、教育観等についての省察」を「受けて、ご自身の教員生活を教育政策の展開との関係で時系列的にふり返り、この先の学校とご自身の教育活動について考えていただきたい」と思っています。	(1)学校現場におけるカウンセリングの利用として、ADHDやASD等の神経発達障害を持つ児童・生徒に対する特別支援教育を取り上げます。神経発達障害の基礎知識の講義では、最近の研究について報告します。さらに、事例を中心に、児童・生徒や保護者に対するカウンセリングや教員との連携の様子及びチームとなって支援する様子紹介しながら、学校とカウンセリングについての理解を深めます。 (2)大学、短期大学、高等専門学校(以下、大学等)では、小中学校や高等学校における特別支援教育の充実と大学等への進学率の上昇から、神経発達障害を持つ学生の増加が予想されています。さらに、2016年度より「障害者差別解消法」が施行され、大学においても「合理的配慮の提供」が法的義務もしくは努力目標となりました。そのため学内での支援体制づくりが急務となっています。神経発達障害を持つ学生の課題について、学生生活支援とキャリア支援の様子を中心に講義します。 (1)と(2)により、中長期的な展望から、神経発達障害を持つ児童・生徒に対する特別支援教育の意義や発展の可能性および課題について、皆さんといっしょに考えたいと思います。	
「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」および「学校とカウンセリング」について学びます。世界の教育の動向とそれによって相対化される日本の学校教育や教師像のあり方、「自分語り」や他者との接触による自己への省察、神経発達障害を持つ児童・生徒に対する特別支援教育の意義や発展の可能性と課題などを扱います。						

2017年度 明治大学 教育職員免許状更新講習 担当割

講習日	領域	講習名	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
			9:30 ~ 10:50	11:00 ~ 12:20	13:20 ~ 14:40	14:50 ~ 16:10
8月2日(水)	選 択	教師への支援と子ども理解	諸富 祥彦 明治大学文学部教授		高瀬 由嗣 明治大学文学部准教授	
			学校場面におけるカウンセリング 学校経営と保護者対応にカウンセリングをいかす		児童・生徒の心理の理解と支援—心理テストの視点から—	
			本講座では、学校現場におけるカウンセリングの役割について、2つの視点から学びます。第一に、カウンセリングを学校経営にどのようにいかすかというポイントから学びます。第二に、保護者対応に際して、どのようにすればよいかを学びます。ともに具体的な事例を取り上げつつ実践に即した内容を扱い、学校とカウンセリングについて理解を深めることを目的としています。エンカウンターなどの実習も含めて体験的な学習とする予定です。		児童・生徒の心理をよりよく理解し支援するための方法を、心理テストの視点から学ぶ。その具体的な内容として、前半は、心理テストの基本的な考え方、意義と目的、そして方法について学習する。後半では、教育現場で利用可能な心理テスト(主にWISC-IV)を取り上げて、子どもを適切に理解し、支援する方法を学ぶ。授業では、事例をまじえながら、心理テストを初めて学ぶ人にもできるだけわかりやすく解説する予定である。	
カウンセリングを学級経営と保護者対応に活かすポイントについて学びます。さらに、心理検査・心理査定の手法の基礎について学ぶとともに、それらを用いて子どもを理解する方法について理解を深めます。これらの学習により、教師の実践的な能力を高めることを目的としています。						
8月3日(木)	選 択	子どもの育ちと学びの支援	武田 洋子 川口短期大学こども学科准教授	伊藤 直樹 明治大学文学部教授 山下 聖隆(ケストスピーカー) 川崎こども心理ケアセンターかなで	林 幸克 明治大学文学部准教授	
			思春期を見据えた 子育て支援について	学校における 子ども虐待への理解と対応	アクティブ・ラーニング型ボランティア学習	
			子育て支援というと、乳幼児とその親を対象にしたものとがちである。しかし、子どもの長きにわたる育ちを見ていくと、乳幼児期を子どもがどのように過ごし、親がどのような状態で子育てを行い、この時期に親子でどのような関係性を形成したのかは、思春期以降の子ども育ちに大きく影響することがわかる。よって、子育て支援には、思春期以降の育ちを見据えた支援という視点が必要となる。本講義では、子育て支援について実例を交えながら概観し、これをもとに、学校現場での親への対応や子ども理解のための視点について考えていきたい。	全国の児童相談所の虐待相談対応件数は年々増加しており、学校においても虐待対応は喫緊の課題となっています。 虐待を受けた子どもとその家族への理解と対応について、児童心理治療施設(旧 情緒障害児短期治療施設)で関わった子ども達との具体的な経験を交えながら、学校現場で必要とされる視点や対応のかんどころについてお話ししたいと思います。	中学校・高等学校におけるボランティア学習の在り方について具体的・実践的に学び、現状と課題を明らかにしつつ、現場での取り組みに活かすことをねらいとする。 まず、講師が、アクティブ・ラーニングの手法を用いたボランティア学習の事前指導・事前学習を模擬的に行う。受講者は、それを、生徒の立場で体験してもらい、教師の視点で振り返り、意義と課題を明確にする。その後、各自のこれまでの取り組みの可能性と限界について議論する。 それらを踏まえて、アクティブ・ラーニング型のボランティア学習の事後指導・事後学習について、具体的・実践的に検討する。 なお、受講者は、これまでのボランティア学習指導に関わる各種資料等を持参することが望ましい。	
					伊藤 貴昭 明治大学文学部准教授	
					学習意欲を高める授業実践とは	
近年、教育心理学では実践に貢献するための教授・学習研究が盛んに行われています。本講義では、その中でも特に学習者の学習意欲に関連する最新の研究を軸にして、参加者自らの授業実践を振り返りつつ、理論との関連について考えていきます。実践のあり方によって学習者の意欲がどのように影響を受けるのか、教師はどのようなポイントに(暗黙にせよ)留意しているのかについて、動機づけ理論の側面から検討します。 なお、講習では参加者相互の実践経験も交流させながら、自らの実践を振り返る活動を中心に進めていく予定です。						
以下のテーマを取り上げながら、子どもの育ちと学びの過程、および学校や教師の役割について、より多面的に捉える視点を養います。 ①子育て支援の実践と虐待を受けた子どもに対する関わりのポイント ②アクティブ・ラーニング型ボランティア学習 ③学習意欲を高める授業実践とは このうち、②と③はいずれか選択となります。						

2017年度 明治大学 教育職員免許状更新講習 担当割

講習日	領域	講習名	1 時限		2 時限		3 時限		4 時限		
			9:30 ~ 10:50		11:00 ~ 12:20		13:20 ~ 14:40		14:50 ~ 16:10		
8月4日(金)	選 択	授業改革の 視点と方法	【英 語】	尾関 直子 明治大学国際日本学部教授				遠藤 雪枝 明治大学文学部兼任講師			
				CEFR と CAN-DO リスト		タスクに基づいた指導法と パフォーマンス評価		「言語教師のポートフォリオ」を活用した省察			
				<p>文科省は、2011年に「中・高等学校では、各学校が、学習指導要領に基づき、生徒に求められる英語力を達成するための学習到達目標を「CAN-DOリスト」の形で具体的に設定することにより、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法や評価方法の工夫・改善が容易になる」と「英語力向上のための5つの提言」の中で提案しました。2014年の文科省の調査によると、CAN-DOリストを作成している高校は、既に半数以上にのぼっています。</p> <p>この講義では、CAN-DOリストの元となり、現行の学習指導要領と、理念や指導方法において共通点も多いCEFR(Common European Framework of References for Languages)について学習します。次にCAN-DOリストの具体的な作成方法を考えます。CAN-DOリストを授業で活用するには、適切なCAN-DOリストが必要です。現在、CAN-DOリストを既に作成し終わった方も、授業でリストをより活用できるように、もう一度CAN-DOリストを見直しましょう。また、CAN-DOリストに書かれた到達目標を達成するためには、どのような指導をすればよいのかについても考えます。</p>		<p>CAN-DOリストに基づいた授業を行うということは、生徒が言語で何ができるかに焦点を当てた授業をすることになります。言語で何ができるかを焦点にした授業は、action-orientedな授業、つまりタスクに基づいた指導方法を取り入れることとなります。タスクに基づいた授業では、学習者が主体となり、いわゆるactive learningな授業を目指すこととなります。それでは、タスクとは何であり、どのような特徴があるのでしょうか。また、タスクはどのように作れば良いのでしょうか。</p> <p>指導と評価は、一体化すべきです。タスクを取り入れた授業を実践した場合、従来の紙と鉛筆を使ったテスト方式の評価では、授業で行なったことを正確に測ることはなりません。タスクを取り入れた授業を実践すれば、それにふさわしい評価をしなくてはなりません。そのような評価をオーセンティックな評価といいますが、その中の一つであるルーブリックを使ったパフォーマンス評価について学習します。</p>		<p>J-POSTL「言語教師のポートフォリオ」の活用方法をみていく。J-POSTLとは、EPOSTL「ヨーロッパ言語教育履修生ポートフォリオ」(the European Portfolio for Student Teachers of Languages)を日本の教育現場でも受容できるように翻案化されたポートフォリオである。J-POSTLの主な特徴は以下の5点である。1) 英語教師に求められる授業力を明示する。2) 授業力とそれを支える基礎知識・技術の振り返りを促す。3) 同僚等との話し合いと協働を促進する。4) 自らの授業の自己評価力を高める。5) 成長を記録する手段を提供する。自己の長所や改善点、指導方法等に対する気づきや省察のツールとして、このポートフォリオを活用していく。</p>			
			【理 科】	早川 雅晴 植草学園大学発達教育学部准教授				益田 裕充 群馬大学教育学部教授			
				気づき・問題解決能力育成のための理科授業デザイン				学習指導要領の改訂を視野に入れた理科授業デザイン			
				<p>「理科」を英訳するとScienceとなりますが、Scienceを日本語訳するとはじめに「科学」という文字がでてきます。「理科」と「科学」はイコールなのでしょうか。「理科」は「科学」にはない日本独自のニュアンスを含んだ教科です。私達は無意識のうちにこのニュアンスを内包した理科教育を実践しています。改めて学習指導要領で学習内容の系統性を俯瞰しながら、理科教育の目標を再確認したいと思います。</p> <p>そして次に、理科の特徴の1つである問題解決能力の育成(思考プロセスの修得)を意識化した授業デザインのパターンを幾つか提示します。はじめに、物理分野の学習内容を例にして、見直しを持った検証可能な仮説設定を重視する「4QS」を体験していただきます。続いて、生物分野の学習内容について、生徒に気づきと関係性を意識させるアクティブラーニングの可能性について考えていきます。</p>				<p>授業のデザインベースである「問題解決の過程(探究の過程)」を学び合います。この講習を終えると、ワンランク上の授業観を身につけることができるそんな授業デザインの省察となる講習を目指します。まず、理科授業で教師が日常取り組まれている授業を省察します。問い(課題・問題)があっても答えのない授業。この授業は問題解決のストーリーに課題があると言えます。結果と考察はどう区別すればよいのでしょうか。身近にある授業の問題を授業のストーリーの観点から解決します。日頃、理科授業に取り組まれている教師が知っていると考えている、当たり前だと考えている授業の指導過程を省察します。さらに、今日、求められている資質・能力を育成する授業をデザインするヒントも問題解決のストーリー性を高めるための「各局面の関係づくり」にあることを省察していただきます。どのような関係の成立が重要なのかを再考し、この学びが日々の授業デザインの改善に資する学びとなるようにします。</p>			

2017年度 明治大学 教育職員免許状更新講習 担当割

講習日	領域	講習名	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限			
			9:30 ~ 10:50	11:00 ~ 12:20	13:20 ~ 14:40	14:50 ~ 16:10			
8月4日(金)	選択	授業改革の視点と方法	【社会】	藤井 剛 明治大学文学部特任教授 金子 幹夫(ゲストスピーカー) <small>神奈川県立平塚農業高等学校初声分校・総括教諭</small>		中平 一義 <small>上越教育大学大学院教育学研究科講師</small>			
				社会科・公民科の授業研究		これからの社会科教育で求められる見方や考え方を育むNIE(新聞活用教育)			
				本講習では、「アクティブラーニング」を取り上げ、生徒をどのように伸ばすことが出来るかを、参加者とともに考えていきたい。具体的には、 (1)社会科系科目におけるアクティブラーニングに関する基本事項の確認 (2)授業研究①「アクティブラーニングの実践」 (3)授業研究②「研究協議」 (4)創造的な授業づくりをめざして (5)ふりかえりを行いたい。		今後の学習指導要領では、3つの柱を中心とした資質や能力を子どもに育成する方向性が示されています。3つの柱とは「何を知っているか、何が出来るか」、「知っていること、できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」です。この3つの柱に対して社会科教育では、「社会的な見方や考え方(追究の視点や方法)」を子どもに身につけさせる必要性も示されています。 本講習では、子どもにそのような「見方や考え方」を育成する一つの方法として、新聞教材を活用した教育(NIE)を基に考えてみたいと思います。 はじめに、NIEの理論的側面について社会科教育の視点から講義を行います。次に、NIEの実践的側面について、いくつかの実践事例を紹介した後に、実際にNIEを体験するワークショップをおこないます。最後には、受講生の皆さんが実践計画を立案できるように考えていきたいと思ひます。			
			【国語】	山崎 健司 <small>明治大学文学部教授</small>	神鷹 徳治 <small>明治大学文学部教授</small>	渡辺 哲男 <small>立教大学文学部准教授</small>			
				古文の授業		漢文は日本文学である		作品の時代背景としての(文化)に着目した国語科教材研究 —井上ひさし「握手」を事例として—	
				「古典の授業が嫌い」という生徒が7割にも及ぶという調査結果がある。そのような状況を作り出した要因を確認し、現代において古典を学ぶ意義はどこにあるのかを問い直してみたい。その上で、これまでに提示された取り組みを紹介しつつ、「古典を好きにさせる」授業づくりに向けての方策を考える。		我が国の古典文学においては、仮名文字を主体とする“古文”と漢字を主体とする“漢文”のふたつの分野がある。この二分野を統合することにより、新たな姿を整えた日本古典文学の世界が現れてくるのではなからうか。ところが、やがると、漢字が使われる“漢文”の分野を中国文学と誤解される方がいる。“漢文”には、返り点や訓読み等の日本における歴史的な読み方があるので、これを深く理解することによって、“漢文”学習の意義が深まるのではなからうか。		日本文学研究における作者論からテキスト論への移行、さらに昨今の「アクティブラーニング」の重視によって、教室における文学作品の解釈は、学習者の「主体的な読み」を尊重するという動向にある。ただし、学習者が「主体的に読む」ということは、教師が教室で何もなくなるということではなならない。学習者が自由に作品を解釈するのなら、その授業に際しての教師の準備(教材研究)はより重要になる。「懐を広くしていなければ、学習者の多様な作品解釈に対応できないからである。本講習では、井上ひさし「握手」(光村図書ほか・中3)を主な事例とし、最新の研究成果を用いて、新しいスタイルの教材研究と授業づくりの可能性を考えてみたい。これにより、「作者の意図を考える」「登場人物の気持ちを考える」などといった問いに終始しがちな国語科授業を改善する契機としたい。	
			【数学】	佐藤 英二 <small>明治大学文学部教授</small>		阿原 一志 <small>明治大学総合数理学部教授</small>			
				生徒とともに作る数学の授業を目指して		数学的活動へのヒント			
				この講習では、授業への生徒の参加を促すために、2つのワークショップを行います。一つは、物を用いて数学的な関係を見つける活動です。生徒の探索的な活動をデザインする方法を考えます。もう一つは、生徒の誤ったアイデアを活かして次の授業展開を考えるケーススタディです。生徒の素朴なアイデアを活かすために、何が必要であるのかという問題を、具体的な場面に即して考えます。なお、工作用紙やハサミなど必要なものはこちらで準備します。		センター試験が2020年以降、記述式を取り入れた問題形式にすることが議論されているということが新聞などでも報道されています。数学においても数学的活動の力＝自分で考える力、自分で説明する力が重要視されてくると思ひます。本講習では生徒の自主的な学びを促す授業について考えます。			
			授業観と学問観の捉え直しを目指します。以下の5クラスから1つを選択となります。 ①英語 「CEFRとCAN-DOリスト」、「タスクに基づいた指導法とパフォーマンス評価」、「言語教師のポートフォリオを活用した省察」 ②理科 「気づき・問題解決能力育成のための理科授業デザイン」、「学習指導要領の改訂を視野に入れた理科授業デザイン」 ③社会・公民 「社会科・公民科の授業研究」、「これからの社会科教育で求められる見方や考え方を育むNIE(新聞活用教育)」 ④国語 「古文の授業」、「漢文は日本文学である」、「作品の時代背景としての(文化)に着目した国語科教材研究—井上ひさし「握手」を事例として—」 ⑤数学 「生徒とともに作る数学の授業を目指して」、「数学的活動へのヒント」						